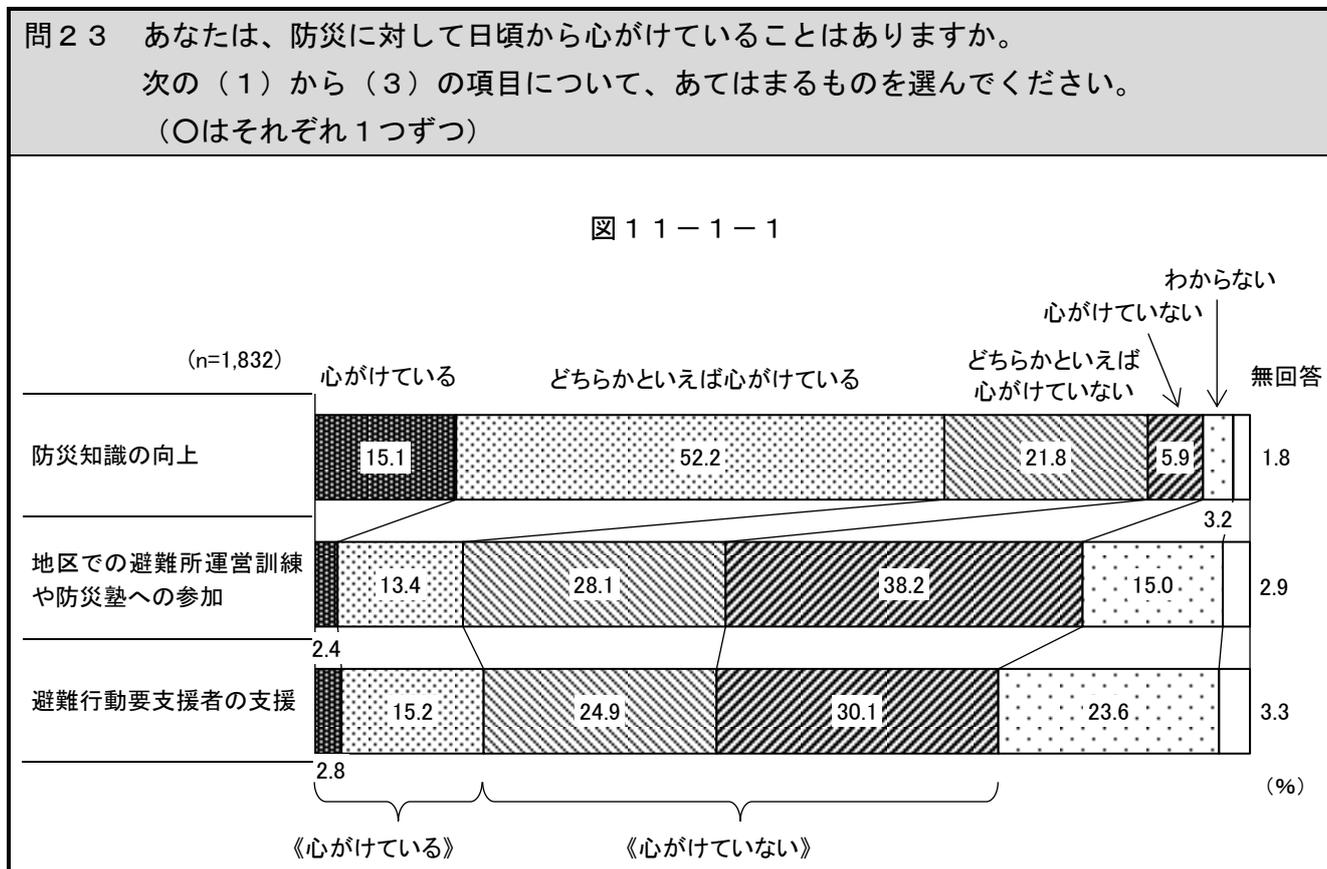


11. 災害時の備え

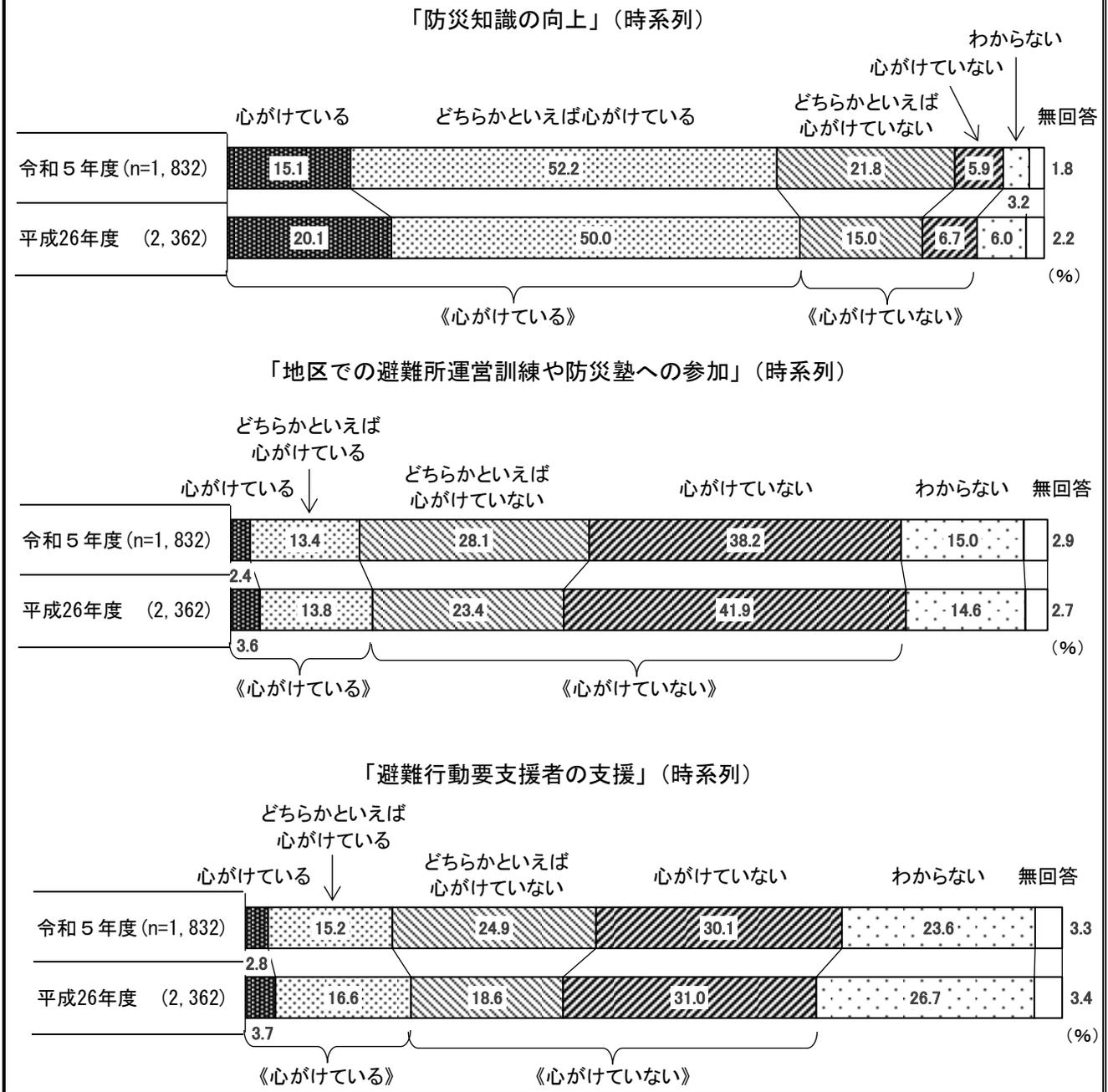
(1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割近く



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(67.3%)が7割近く、「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.8%)が1割半ば、「避難行動要支援者の支援」(18.1%)が2割近くとなっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(66.3%)が6割半ばで、他の2項目より高くなっている。(図11-1-1)

図 1 1 - 1 - 2 防災への対処（時系列）



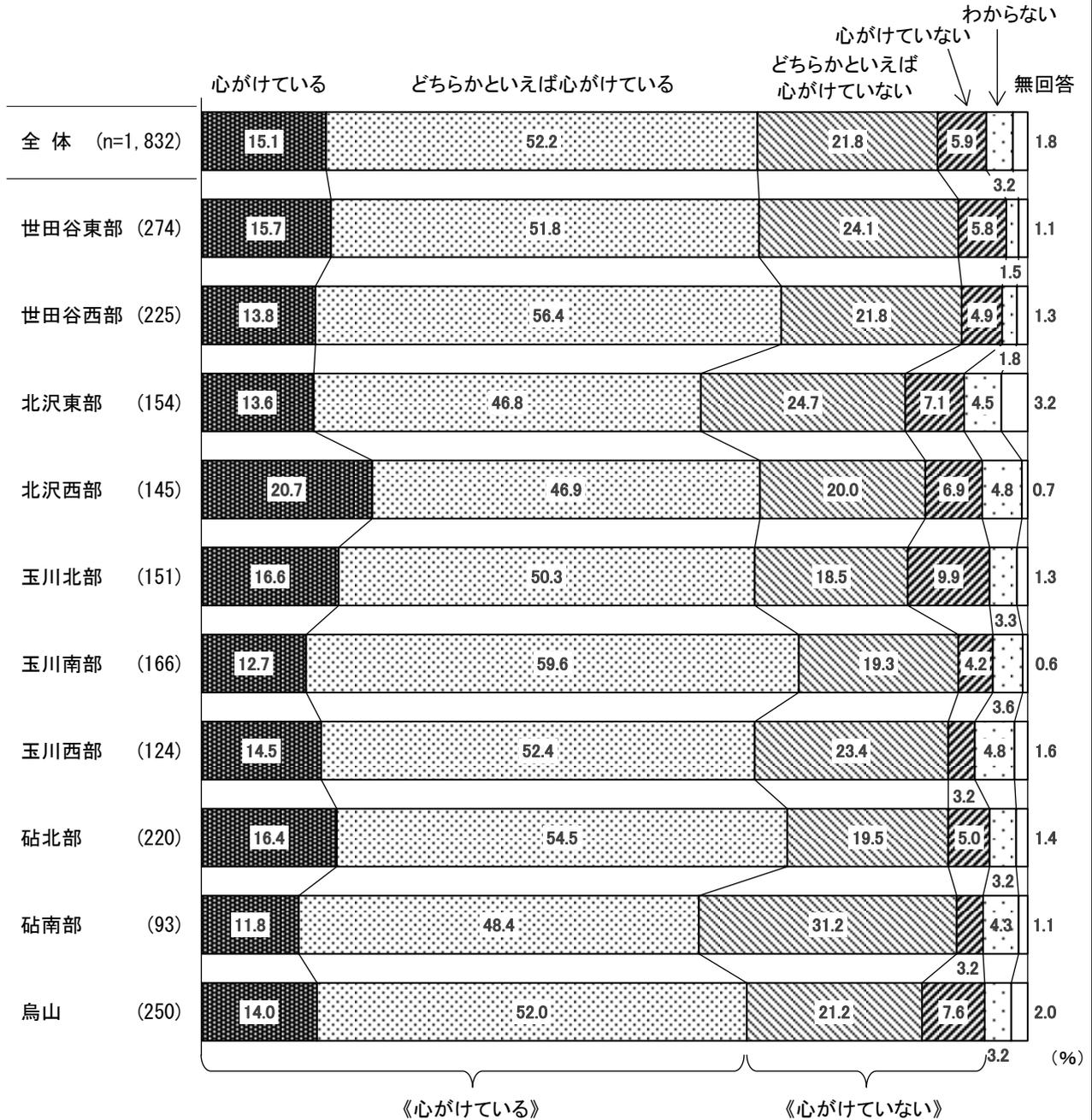
「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（70.1%）から令和 5 年度（67.3%）で大きな違いはみられない。《心がかけていない》は平成 26 年度（21.7%）から令和 5 年度（27.7%）で増加している。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（17.4%）から令和 5 年度（15.8%）、《心がかけていない》は平成 26 年度（65.3%）から令和 5 年度（66.3%）で大きな違いはみられない。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（20.3%）から令和 5 年度（18.1%）で大きな違いはみられない。《心がかけていない》は平成 26 年度（49.6%）から令和 5 年度（55.0%）で増加している。（図 1 1 - 1 - 2）

図 1 1 - 1 - 3 防災への対処

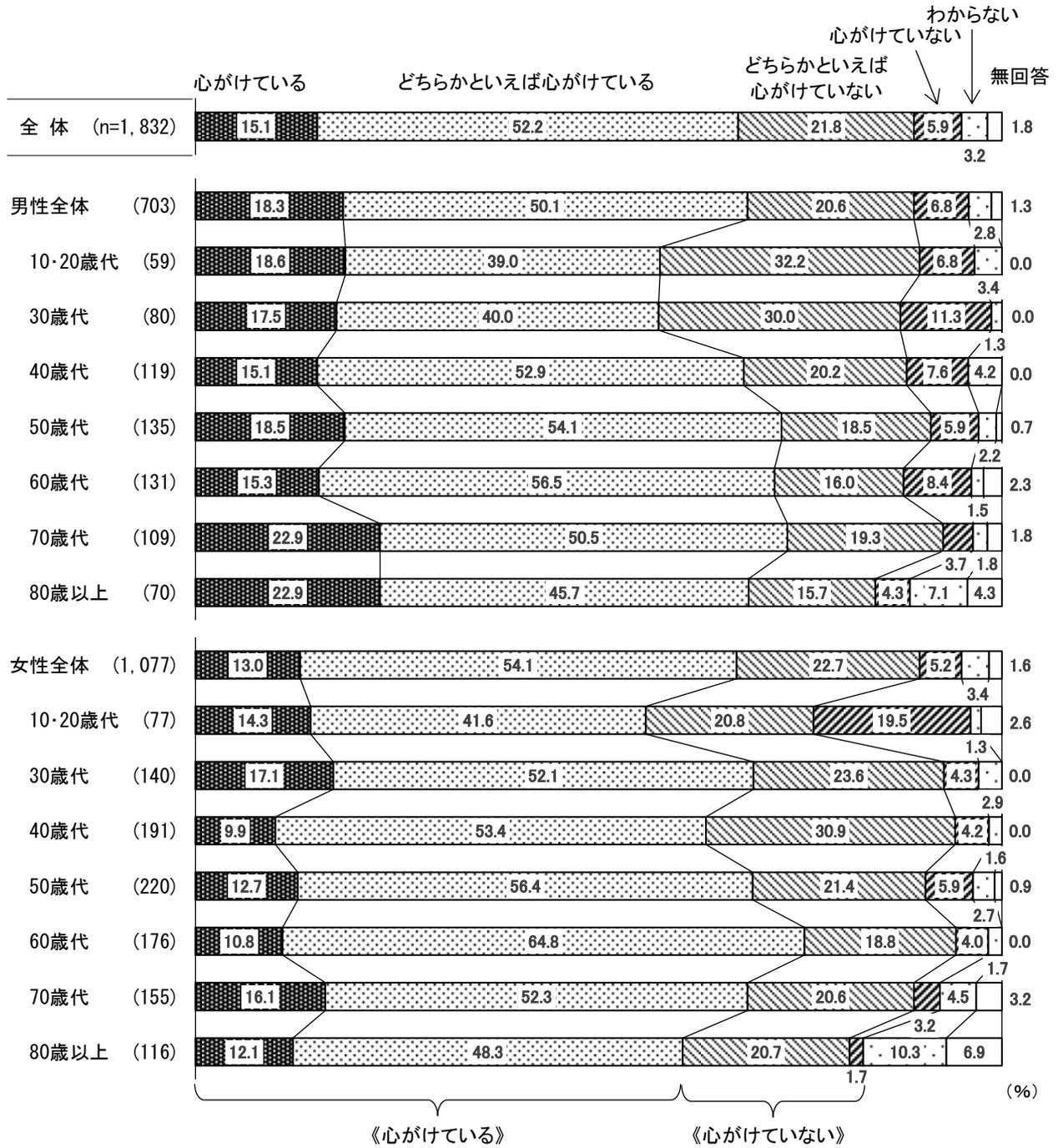
「防災知識の向上」(地域別)



「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は北沢西部でほぼ2割となっている。《心がけている》は玉川南部で7割を超え、砧北部でほぼ7割、世田谷西部で7割となっている。《心がけていない》は砧南部で3割半ば、北沢東部で3割を超えている。(図1 1 - 1 - 3)

図 1 1 - 1 - 4 防災への対処

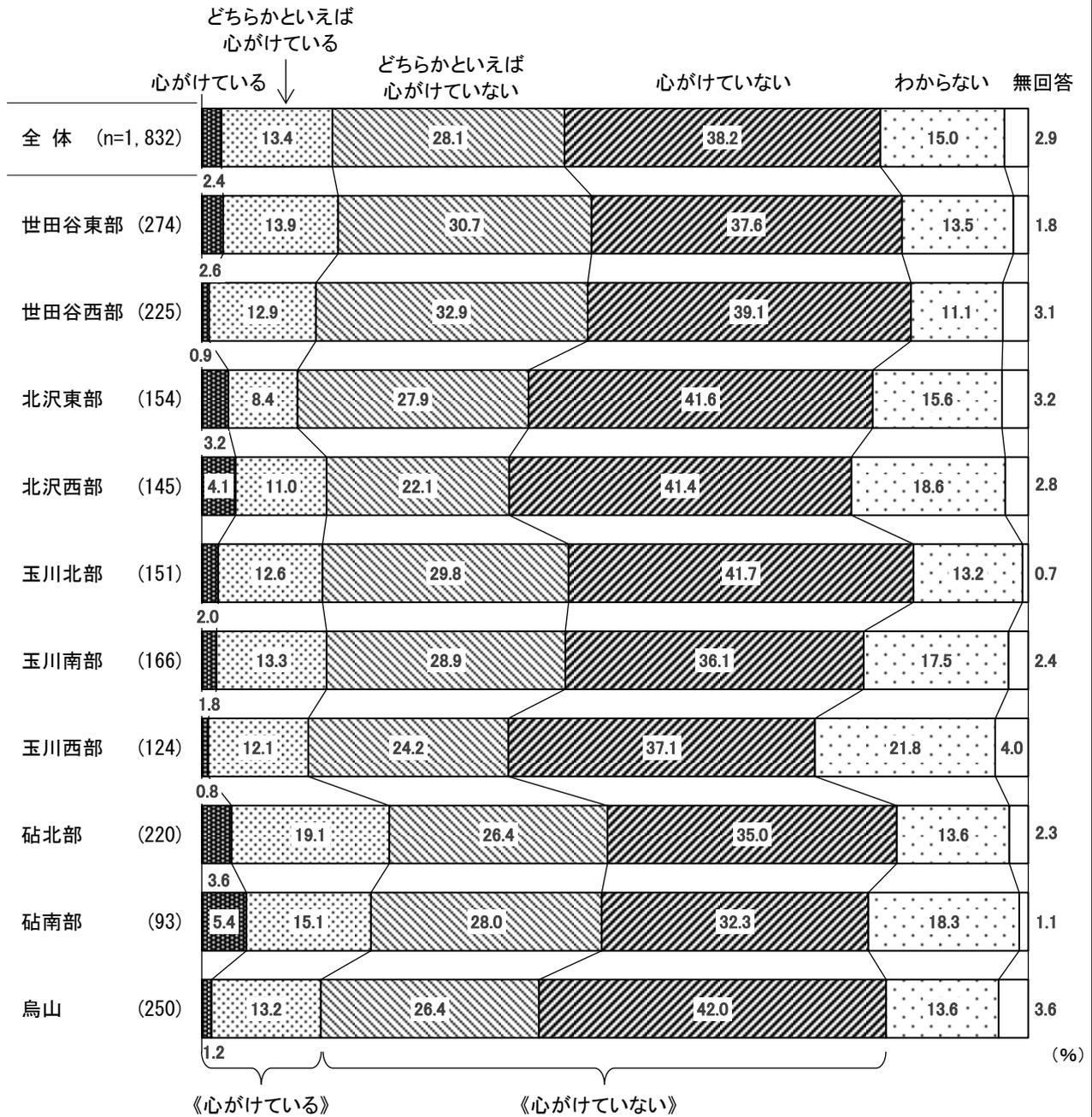
「防災知識の向上」(性・年齢別)



「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の60歳代で7割半ば、男性の50歳代～70歳代で7割を超えている。一方、《心がけていない》は男性の30歳代で4割を超え、女性の10・20歳代で4割、男性の10・20歳代でほぼ4割となっている。(図1 1 - 1 - 4)

図 1 1 - 1 - 5 防災への対処

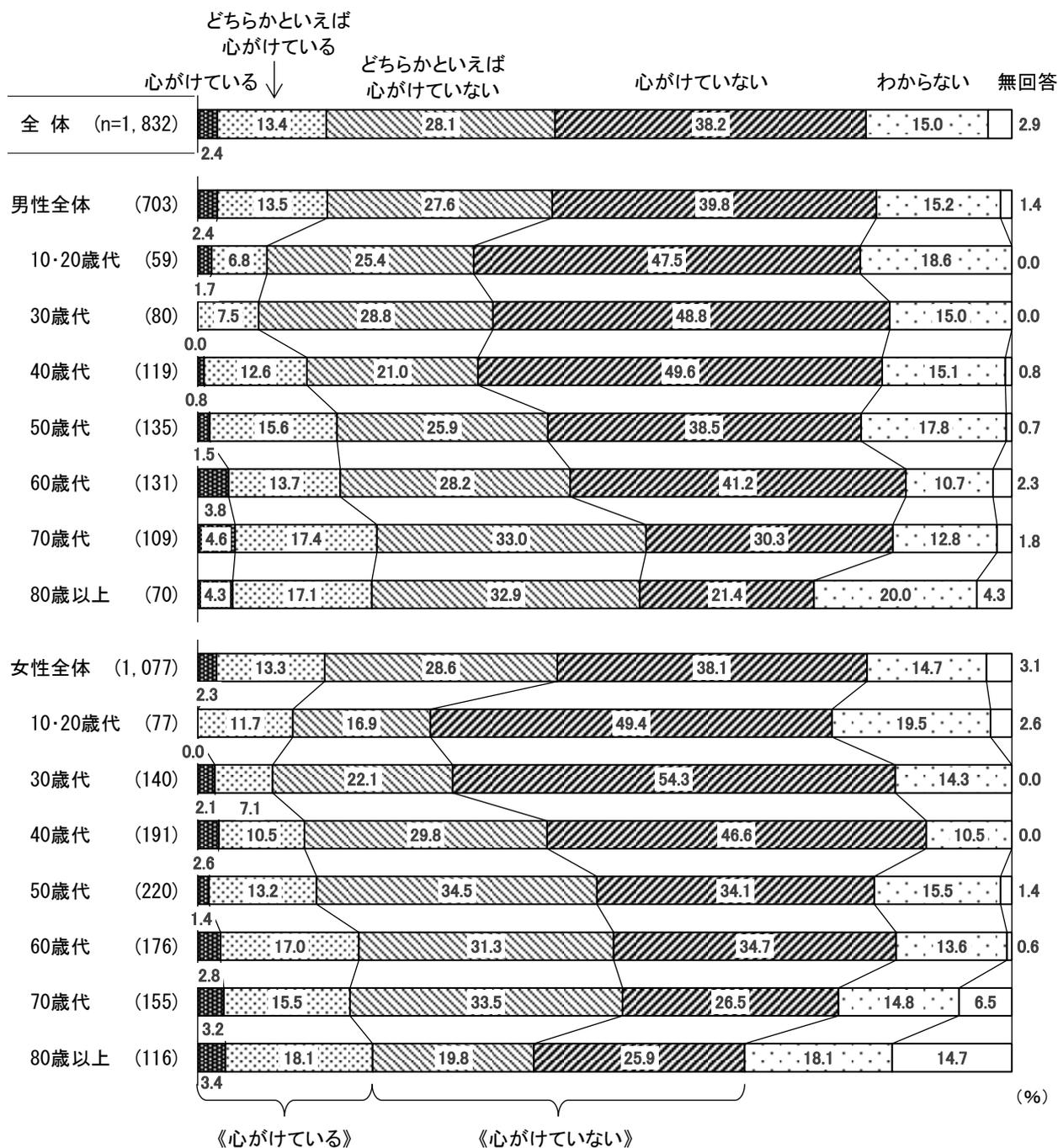
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は砧北部で2割を超え、砧南部で2割となっている。《心がけていない》は世田谷西部と玉川北部で7割を超え、北沢東部で7割となっている。(図 1 1 - 1 - 5)

図 1 1 - 1 - 6 防災への対処

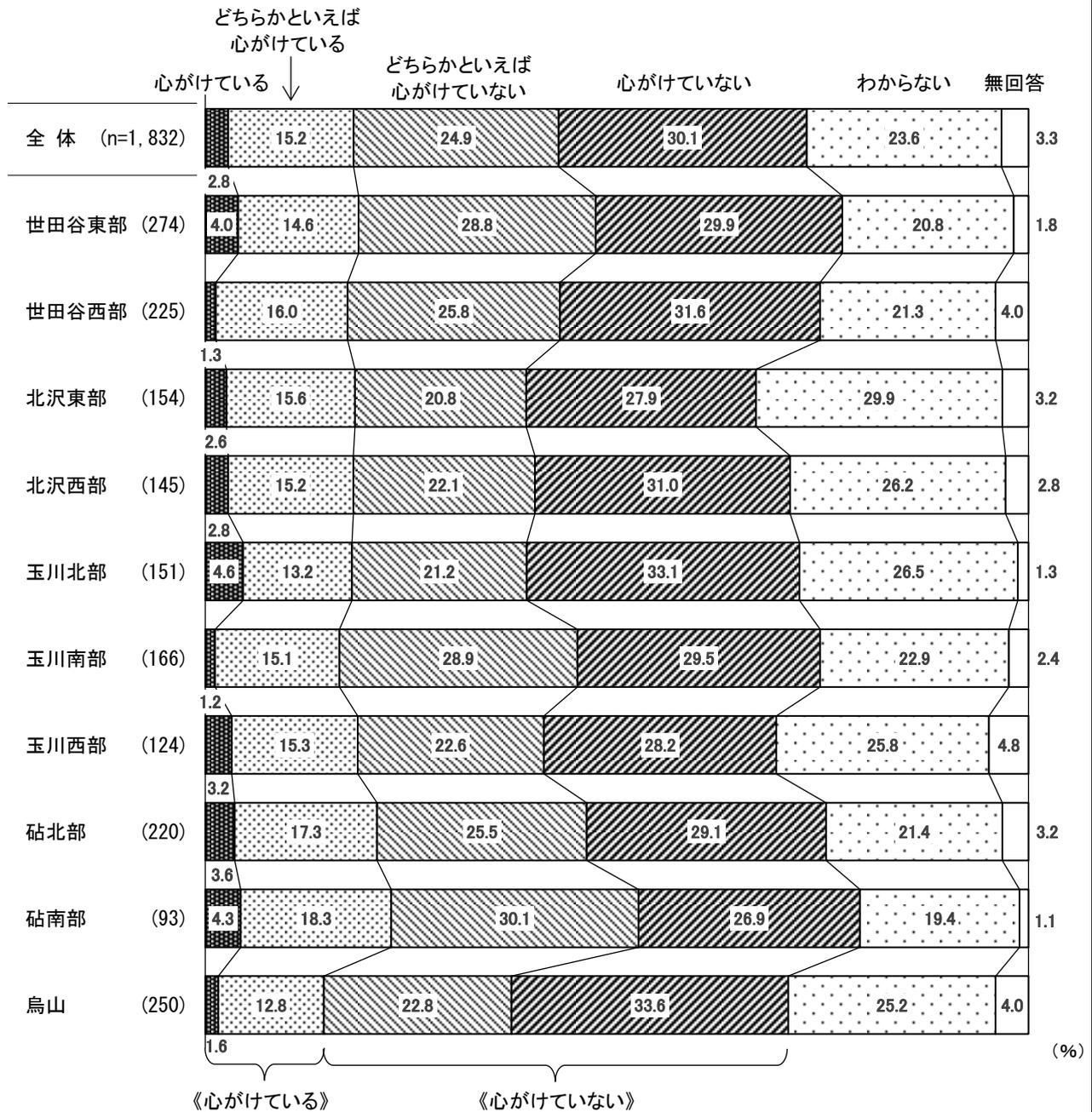
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、「心がかけている」は男性の70歳代と80歳以上、女性の80歳以上で2割を超え、女性の60歳代で2割となっている。「心がかけていない」は男性の30歳代で8割近く、女性の30歳代と40歳代で7割半ば、男性の10・20歳代で7割を超えている。(図1 1 - 1 - 6)

図 1 1 - 1 - 7 防災への対処

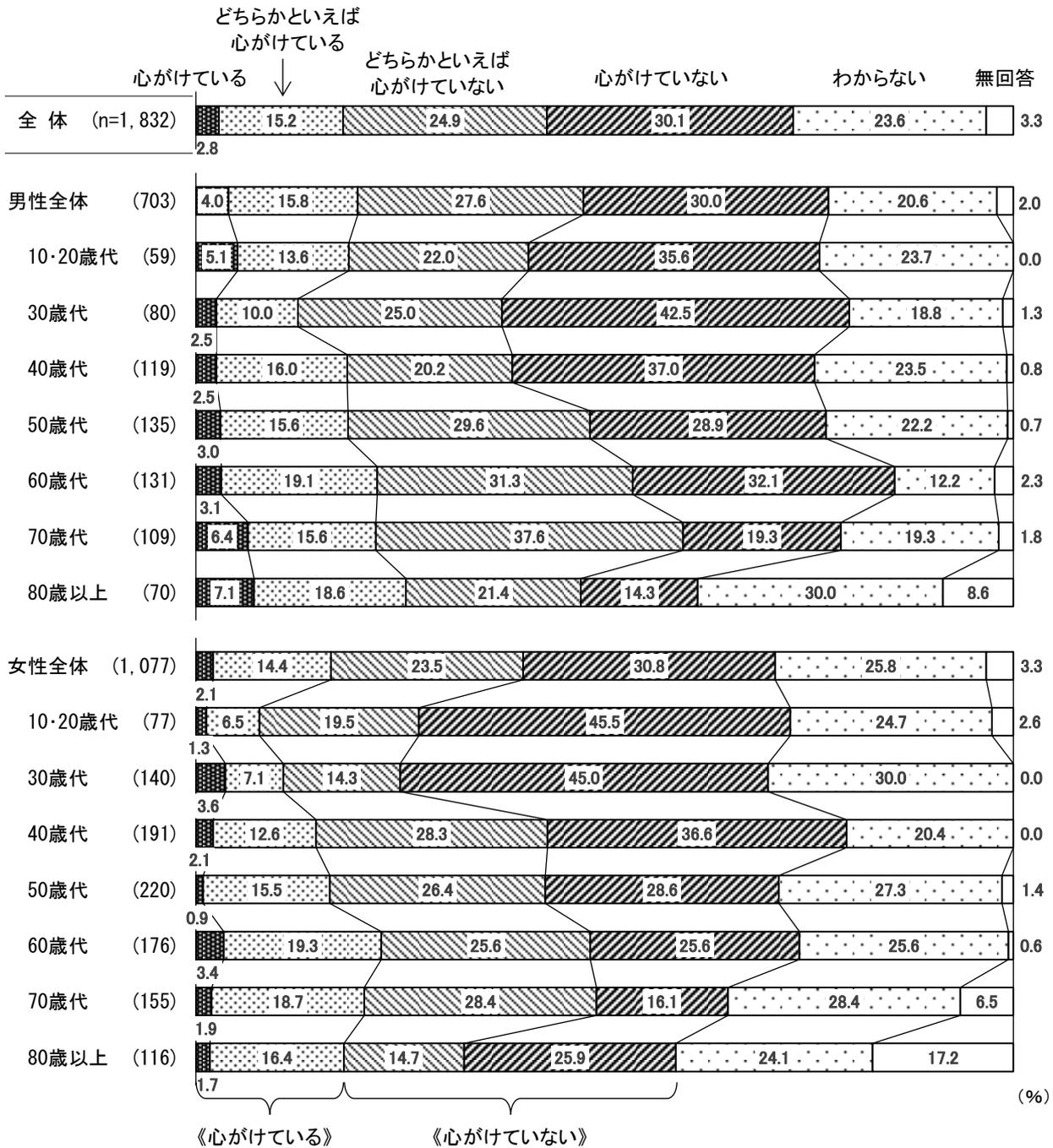
「避難行動要支援者の支援」(地域別)



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は砧南部で2割を超え、砧北部でほぼ2割となっている。《心がけていない》は世田谷東部、玉川南部、世田谷西部、砧南部で6割近くとなっている。(図 1 1 - 1 - 7)

図 1 1 - 1 - 8 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



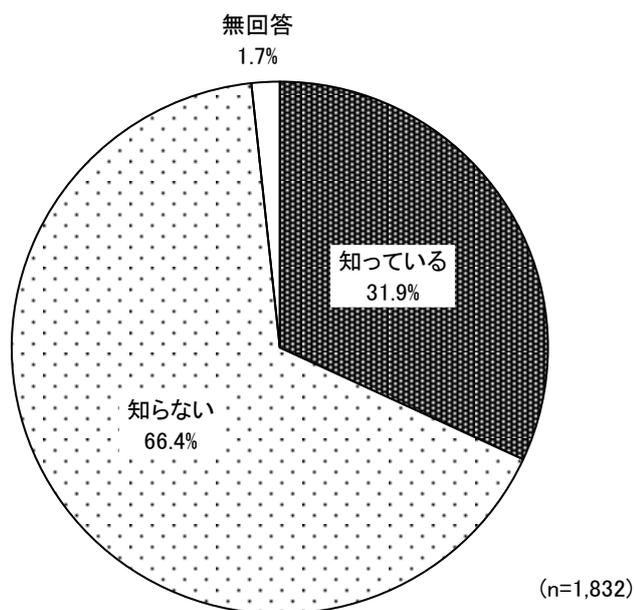
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心にかけている》は男性の80歳以上で2割半ば、男性の60歳代と70歳代、女性の60歳代で2割を超えている。《心にかけていない》は男性の30歳代で7割近く、女性の10・20歳代と40歳代で6割半ばとなっている。(図11-1-8)

(2) 在宅避難推奨の認知度

◎「知っている」が3割を超え、「知らない」が6割半ば

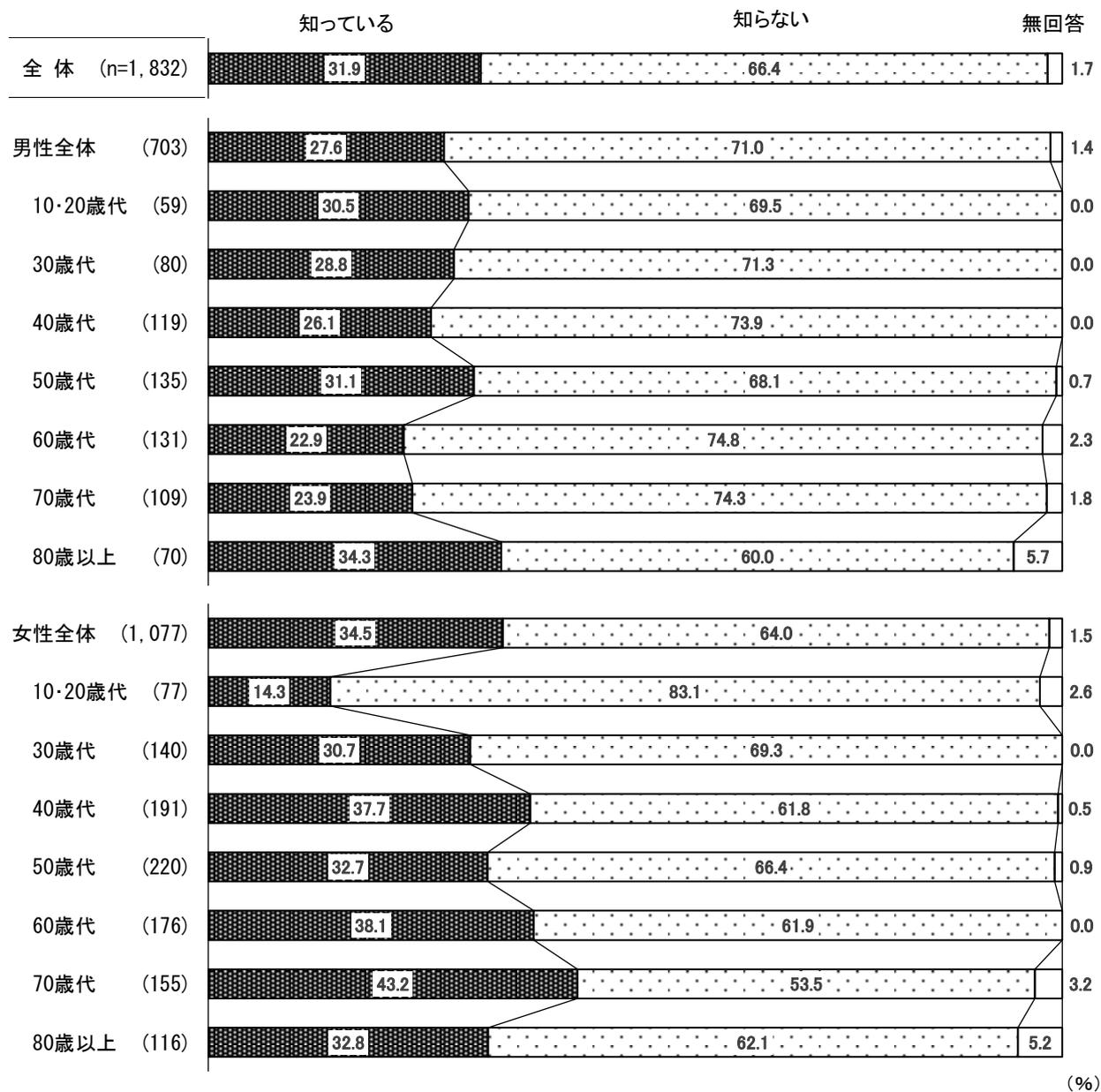
問24 あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。(○は1つ)

図11-2-1



区が在宅避難を推奨していることを知っているか聞いたところ、「知っている」(31.9%)が3割を超え、「知らない」(66.4%)が6割半ばとなっている。(図11-2-1)

図 1 1 - 2 - 2 在宅避難推奨の認知度（性・年齢別）

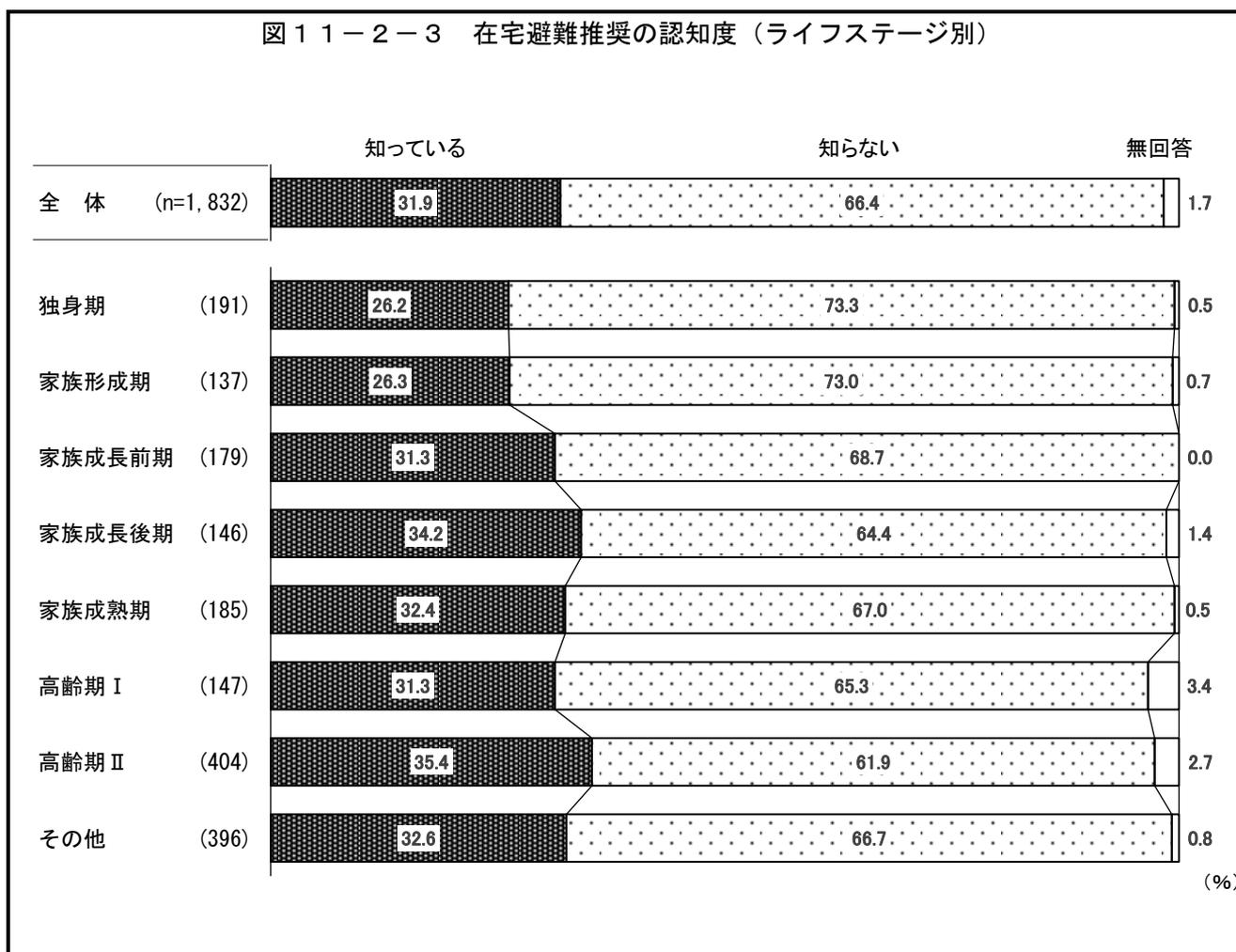


(%)

性・年齢別にみると、いずれの年代も「知っている」より「知らない」の方が高くなっている。「知っている」は女性の70歳代で4割を超え、女性の40歳代と60歳代で4割近くとなっている。

(図 1 1 - 2 - 2)

図 1 1 - 2 - 3 在宅避難推奨の認知度（ライフステージ別）



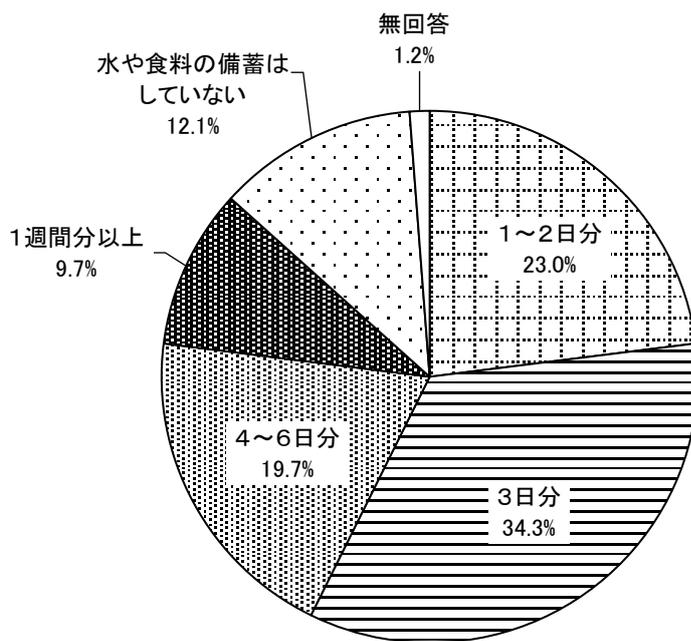
ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長後期と高齢期Ⅱで3割半ばとなっている。一方、「知らない」は独身期と家族形成期で7割を超えている。（図 1 1 - 2 - 3）

(3) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割半ば

問25 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(○は1つ)

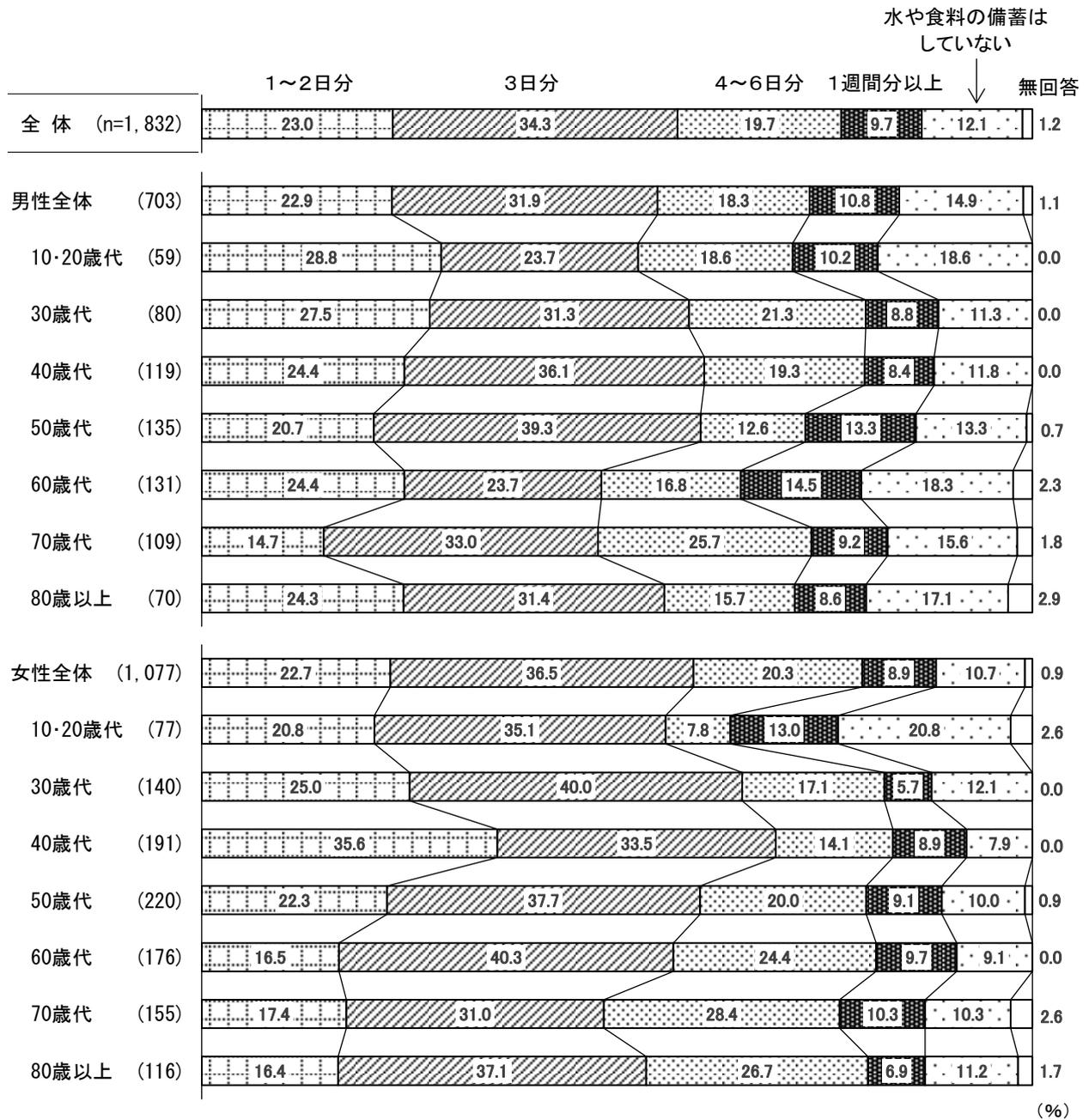
図11-3-1



(n=1,832)

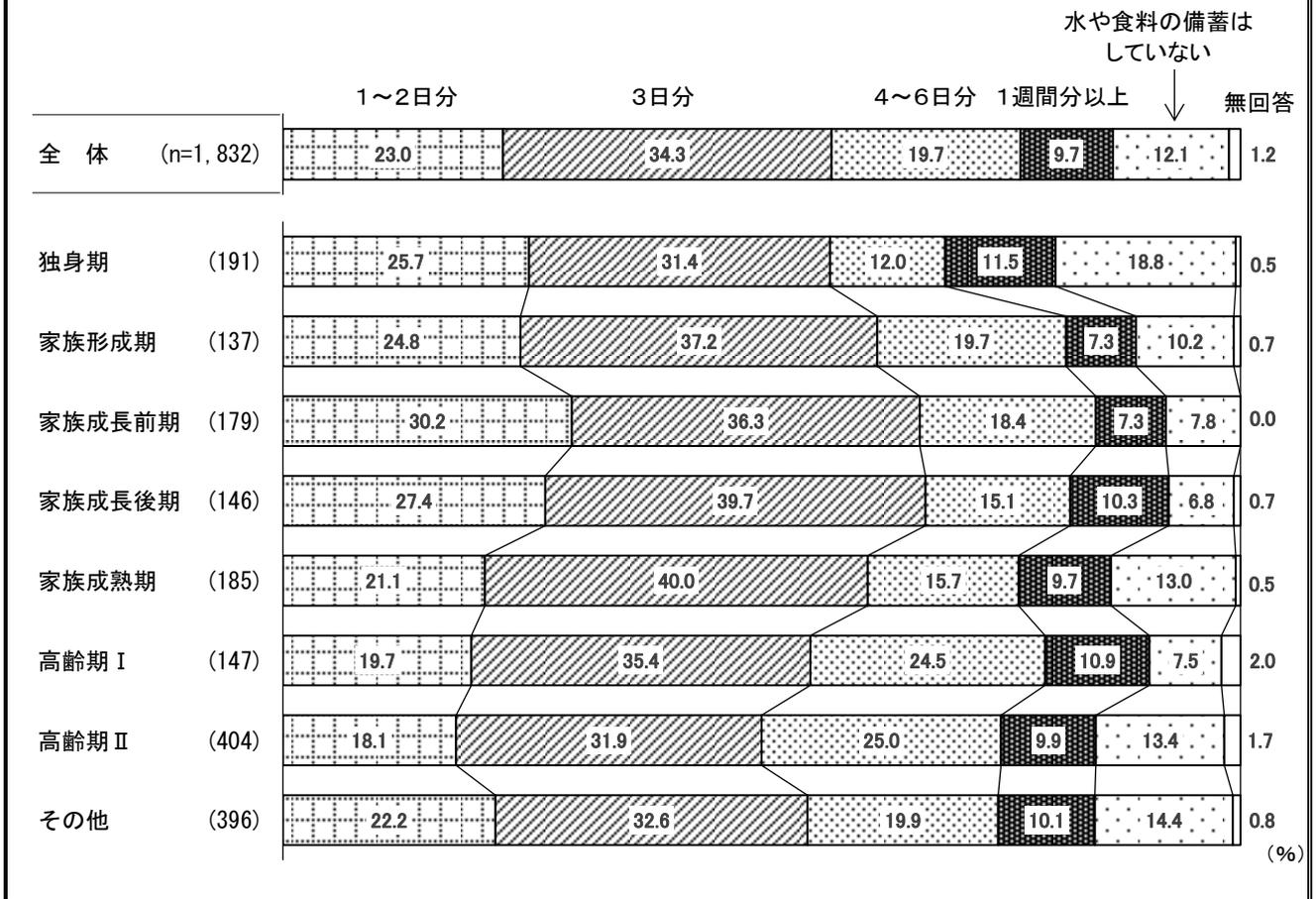
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(34.3%)が3割半ばで最も高く、以下、「1~2日分」(23.0%)、「4~6日分」(19.7%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(12.1%)は1割を超えている。(図11-3-1)

図 1 1 - 3 - 2 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、いずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代は7割半ばとなっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女ともに10・20歳代が他の年代に比べ高く、女性の10・20歳代ではほぼ2割、男性の10・20歳代で2割近くとなっている。（図11-3-2）

図 1 1 - 3 - 3 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



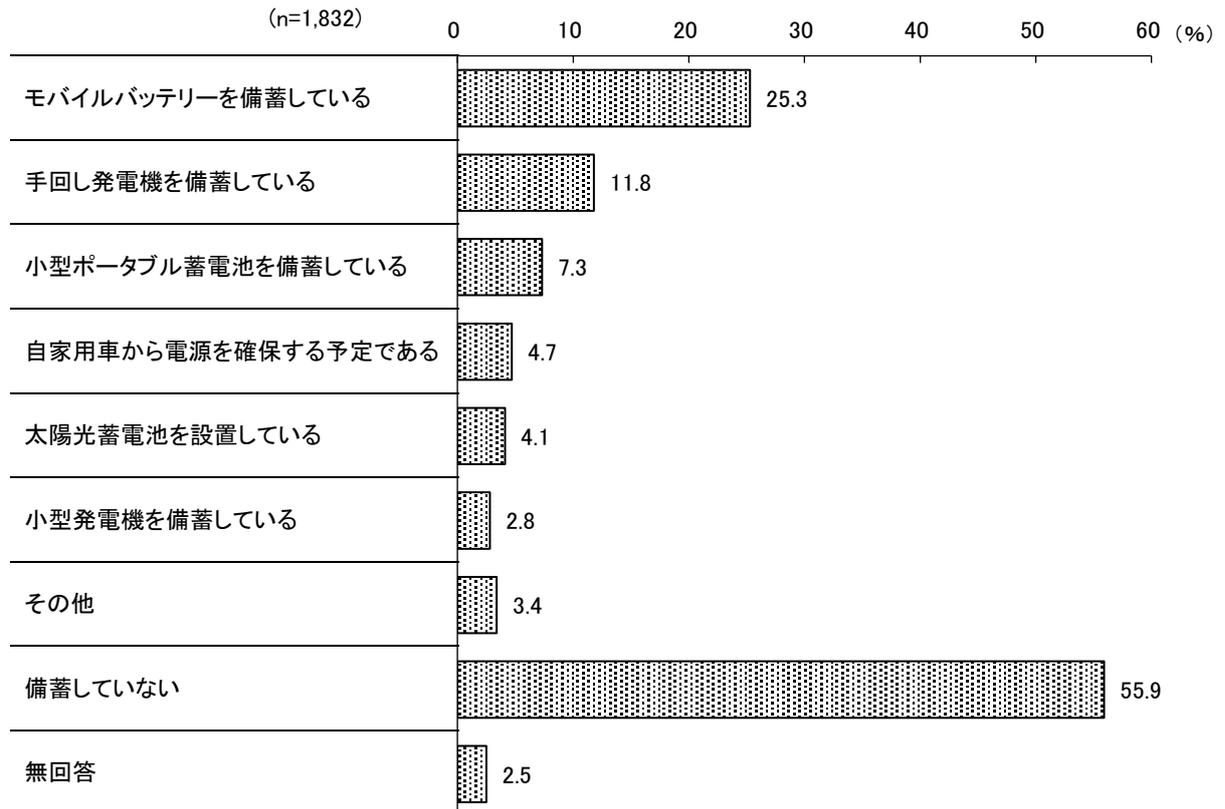
ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期 I でほぼ7割となっている。一方、独身期で3日分以上備蓄している割合は5割半ばと他のライフステージに比べ低い。（図 1 1 - 3 - 3）

(4) 非常用電力の備蓄について

◎「備蓄していない」が5割半ば

問26 あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。(〇はいくつでも)

図11-4-1



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」(55.9%)が5割半ばで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」(25.3%)が2割半ばで最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」(11.8%)、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」(7.3%)などと続いている。(図11-4-1)

表 1 1 - 4 - 1 非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

		(%)									
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	自家用車から電源を確保する予定である	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	その他	備蓄していない	無回答
全 体		1,832	25.3	11.8	7.3	4.7	4.1	2.8	3.4	55.9	2.5
性・年齢別	男性全体	703	26.2	11.0	8.1	5.5	4.0	2.7	3.4	57.6	1.8
	10・20歳代	59	39.0	13.6	3.4	3.4	5.1	1.7	5.1	54.2	1.7
	30歳代	80	32.5	11.3	18.8	3.8	6.3	3.8	2.5	51.3	-
	40歳代	119	42.0	12.6	12.6	6.7	6.7	2.5	0.8	43.7	0.8
	50歳代	135	30.4	13.3	9.6	5.9	3.0	0.7	3.0	55.6	1.5
	60歳代	131	17.6	12.2	6.9	8.4	2.3	3.1	3.8	61.8	3.1
	70歳代	109	15.6	7.3	2.8	5.5	3.7	4.6	5.5	64.2	1.8
	80歳以上	70	5.7	4.3	-	1.4	1.4	2.9	4.3	77.1	4.3
	女性全体	1,077	24.8	12.7	6.6	4.2	4.4	2.8	3.0	55.5	2.4
	10・20歳代	77	42.9	18.2	3.9	-	2.6	1.3	5.2	40.3	2.6
	30歳代	140	39.3	13.6	7.9	4.3	2.9	2.9	2.1	44.3	2.9
	40歳代	191	32.5	16.2	7.9	5.2	5.2	3.7	0.5	48.7	2.1
	50歳代	220	34.1	13.6	8.6	4.1	4.5	5.0	3.6	47.3	0.9
	60歳代	176	17.0	14.2	9.1	5.1	8.0	1.7	2.8	58.5	0.6
70歳代	155	7.1	7.7	2.6	2.6	3.2	1.3	2.6	74.8	3.9	
80歳以上	116	0.9	5.2	2.6	6.0	1.7	1.7	6.0	75.0	6.0	

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は男性の80歳以上で8割近く、女性の70歳代と80歳以上で7割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は男女とも50歳代以下が高く、男性の40歳代、女性の10・20歳代で4割を超えている。「手回し発電機を備蓄している」は男女とも60歳代以下で1割台となっている。（表11-4-1）

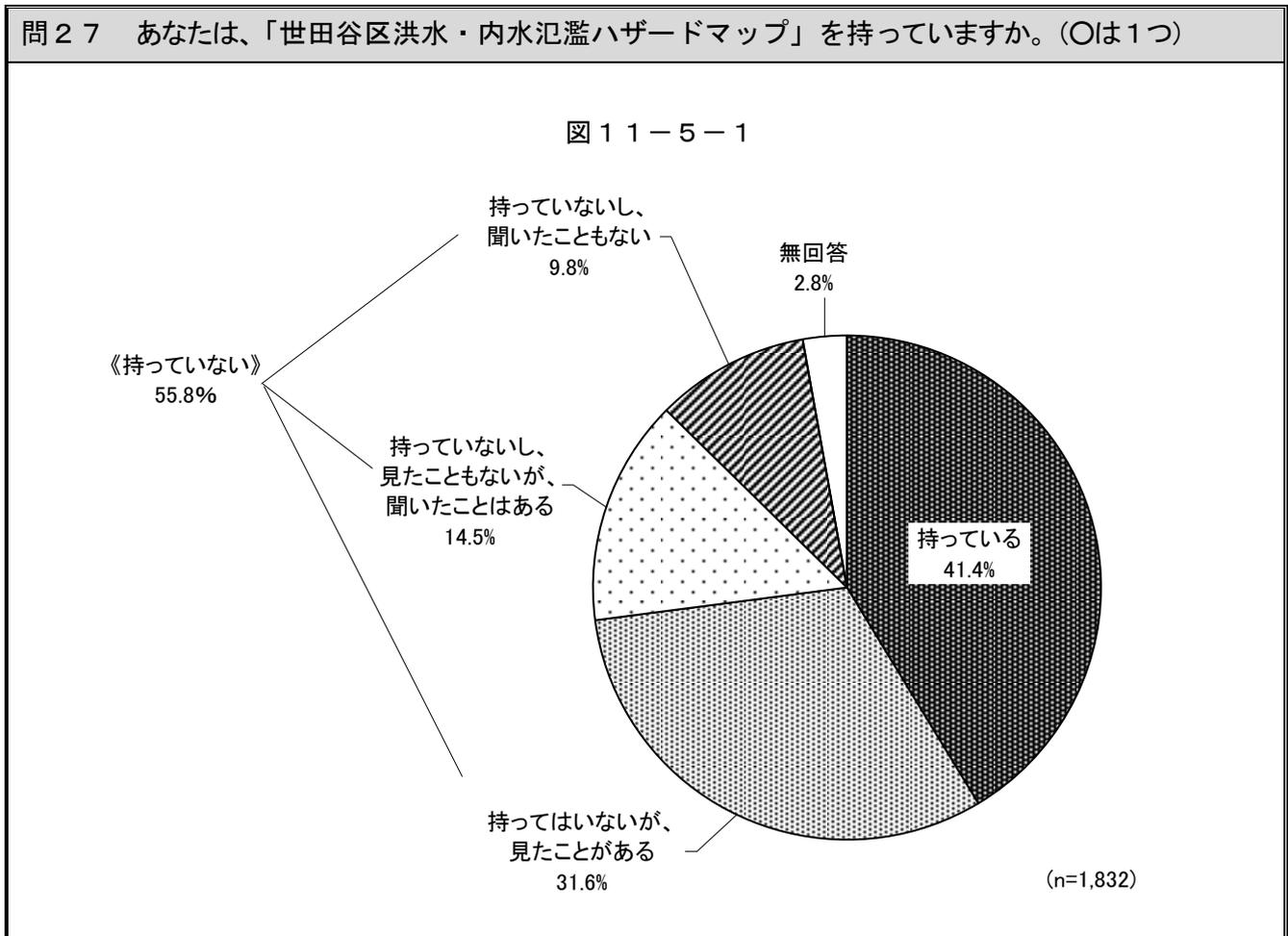
表 1 1 - 4 - 2 非常用電力の備蓄について（ライフステージ別）

		(%)									
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	自家用車から電源を確保する予定である	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	その他	備蓄していない	無回答
全 体		1,832	25.3	11.8	7.3	4.7	4.1	2.8	3.4	55.9	2.5
ライフステージ別	独身期	191	39.3	12.6	7.3	2.1	3.7	1.6	4.2	49.2	1.6
	家族形成期	137	38.0	15.3	11.7	4.4	4.4	4.4	2.9	45.3	1.5
	家族成長前期	179	38.0	18.4	11.7	7.3	8.4	3.9	0.6	41.3	1.1
	家族成長後期	146	35.6	18.5	8.2	6.8	3.4	1.4	2.7	46.6	1.4
	家族成熟期	185	29.2	14.6	11.4	5.9	2.7	3.2	2.7	52.4	0.5
	高齢期Ⅰ	147	8.2	8.8	2.7	6.1	6.8	3.4	8.8	61.2	3.4
	高齢期Ⅱ	404	9.9	7.7	3.2	2.7	2.7	2.5	3.2	72.5	3.5
	その他	396	26.5	9.3	7.6	5.3	4.0	2.5	2.5	55.6	2.5

ライフステージ別にみると、「備蓄していない」は高齢期Ⅱで7割を超え、高齢期Ⅰで6割を超えている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は独身期でほぼ4割、家族形成期と家族成長前期で4割近く、家族成長後期で3割半ば、「手回し発電機を備蓄している」は家族成長前期と家族成長後期で2割近くとなっている。（表 1 1 - 4 - 2）

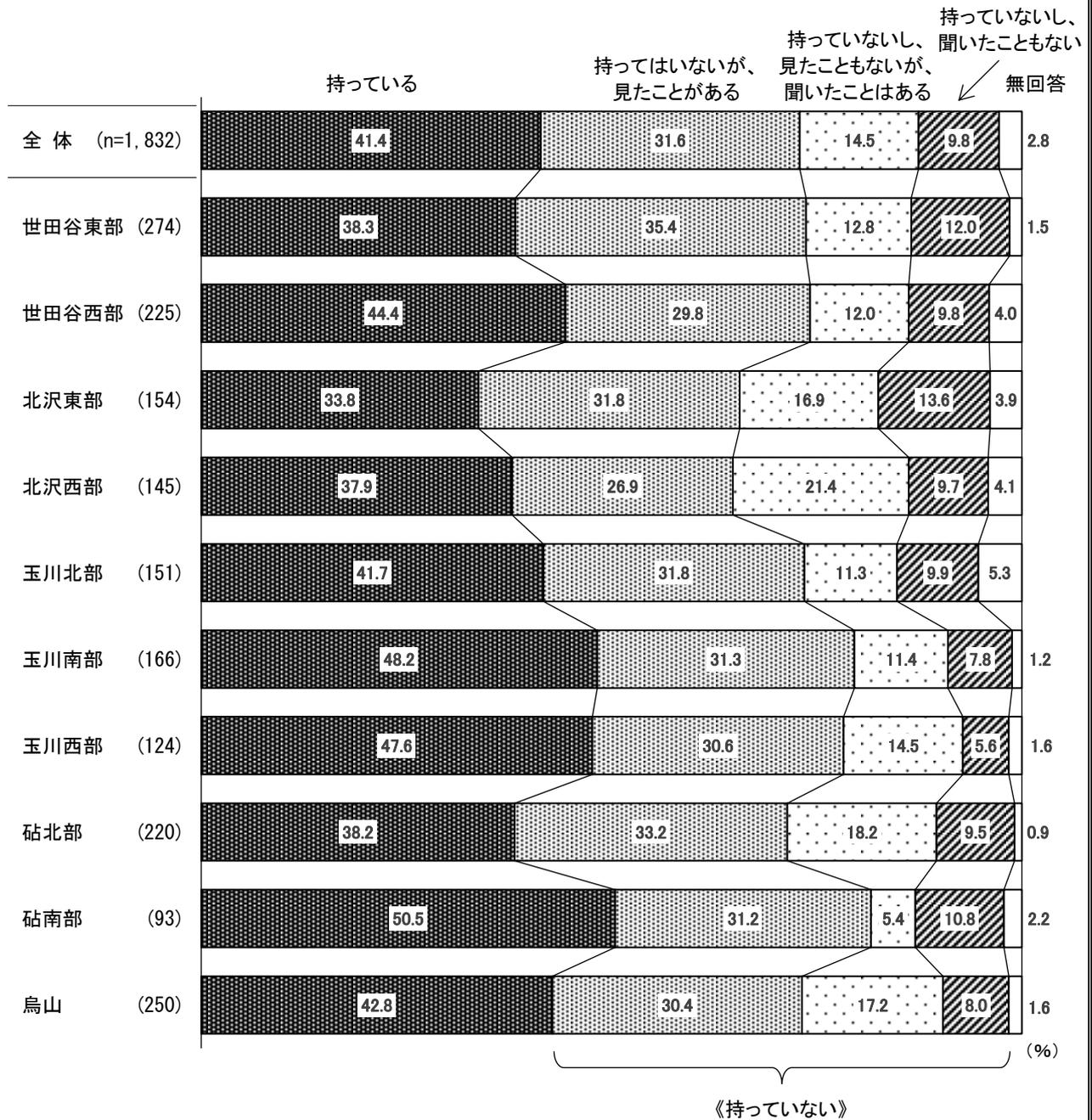
(5) ハザードマップの認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が4割を超える



ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」(41.4%)が4割を超え、「持っていないが、見たことがある」(31.6%)と「持っているし、見たこともないが、聞いたことはある」(14.5%)と「持っていないし、聞いたこともない」(9.8%)を合わせた《持っていない》(55.8%)が5割半ばとなっている。(図11-5-1)

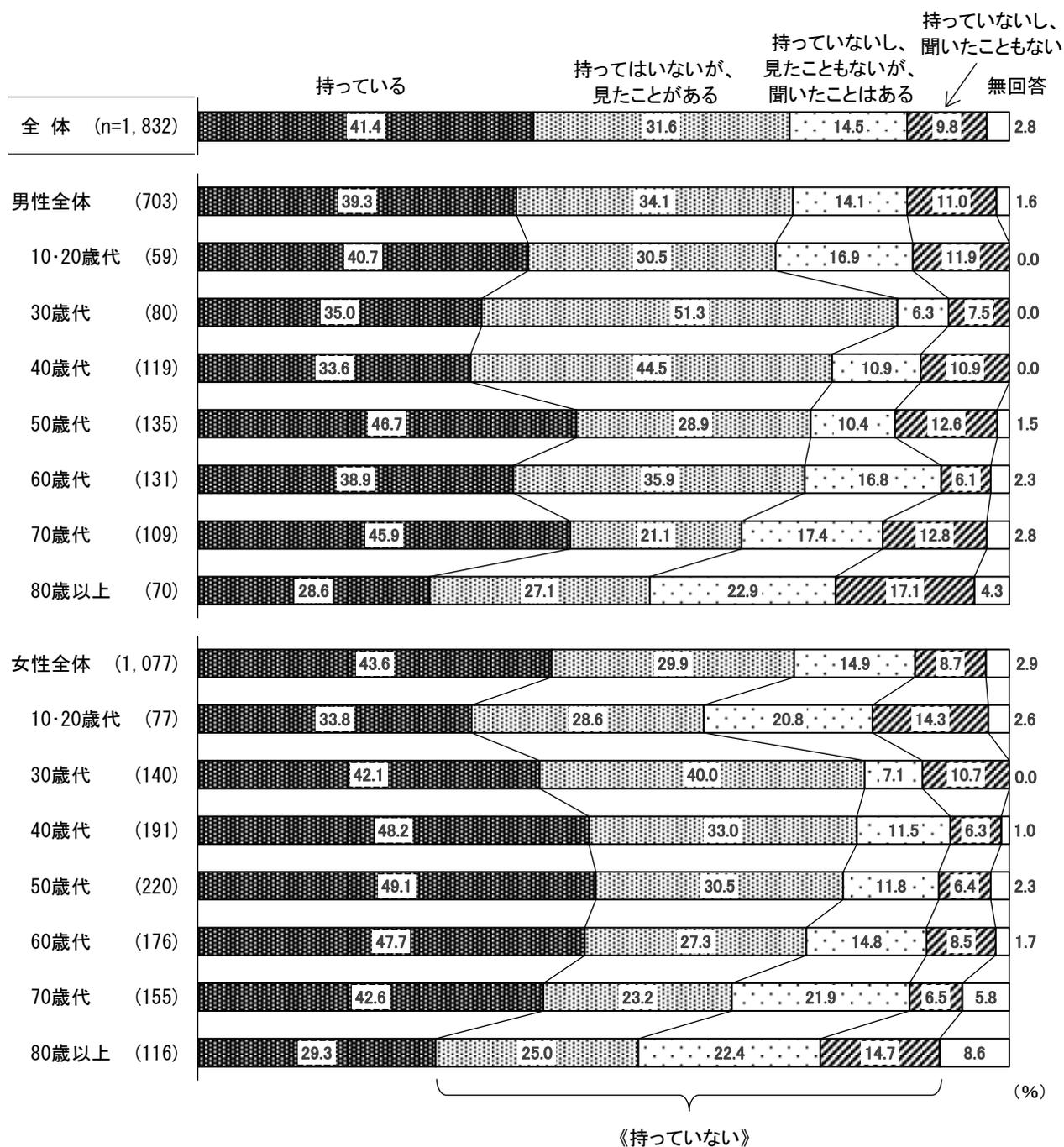
図 1 1 - 5 - 2 ハザードマップの認知度 (地域別)



地域別にみると、「持っている」は砧南部でほぼ5割、玉川南部と玉川西部で5割近くとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は北沢西部で3割を超え、北沢東部でほぼ3割となっている。

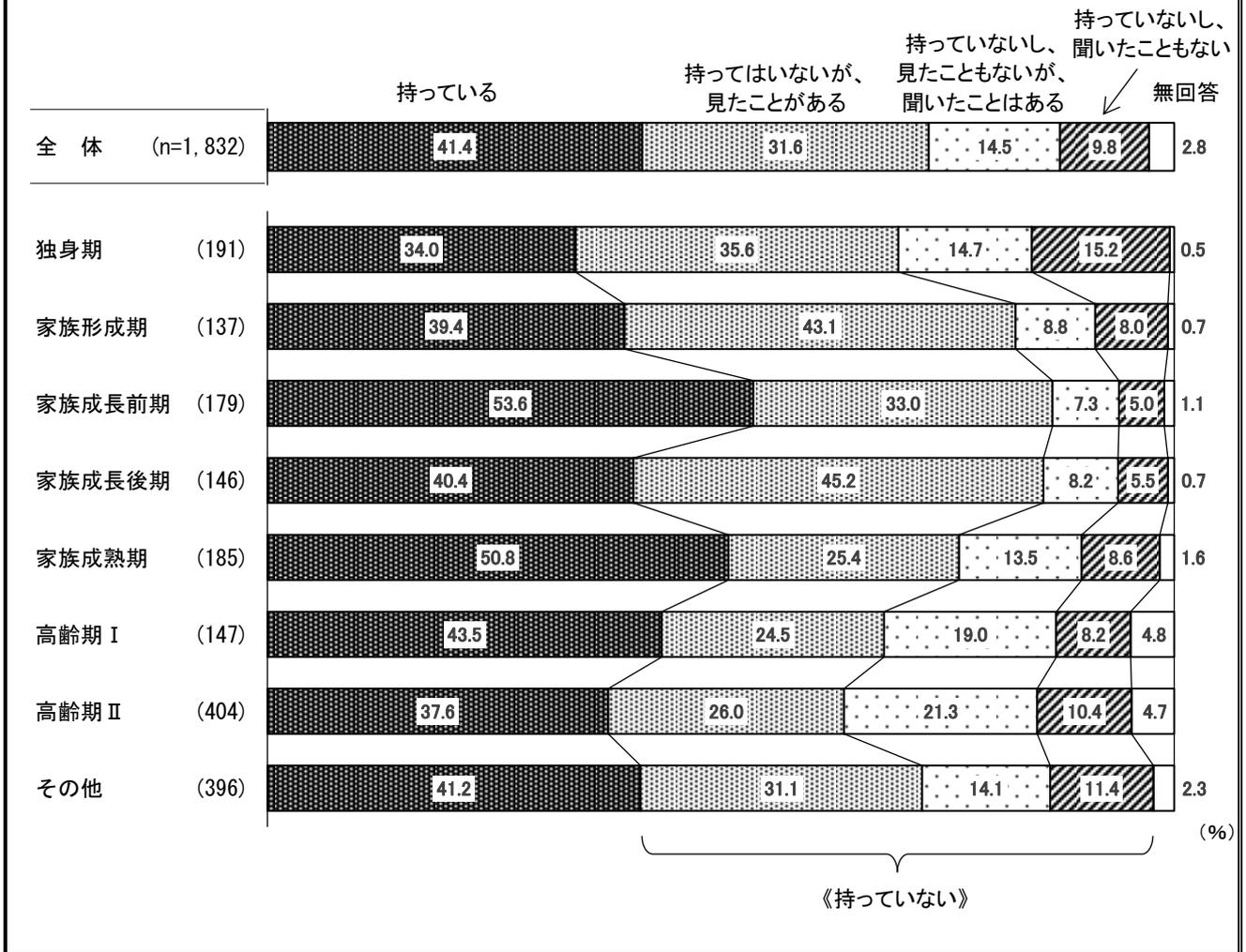
(図 1 1 - 5 - 2)

図 1 1 - 5 - 3 ハザードマップの認知度 (性・年齢別)



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の50歳代でほぼ5割、男性の50歳代、女性の40歳代と60歳代で5割近くとなっている。《持っていない》は男性の80歳以上で7割近く、男性の30歳代と40歳代で6割半ばとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は男性の80歳以上で4割、女性の80歳以上で4割近くとなっている。(図11-5-3)

図 1 1 - 5 - 4 ハザードマップの認知度 (ライフステージ別)



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で5割を超え、家族成熟期でほぼ5割となっている。《持っていない》は独身期で6割半ば、家族形成期で6割、家族成長後期で6割近くとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は高齢期IIで3割を超え、独身期で3割となっている。(図 1 1 - 5 - 4)

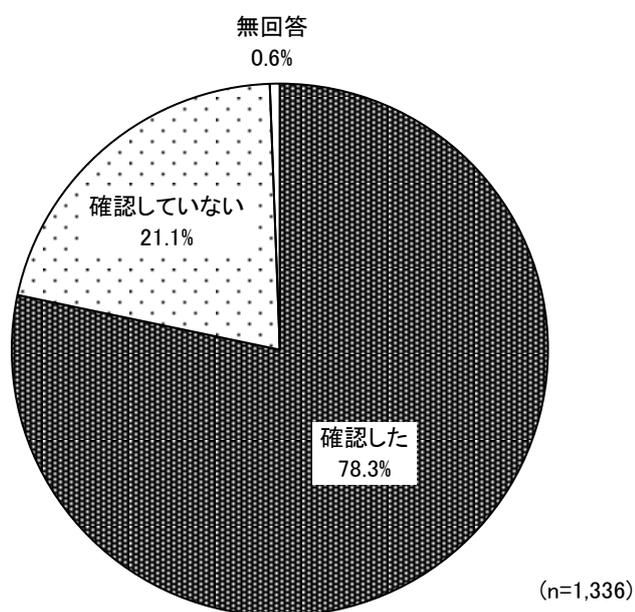
(6) ハザードマップの活用状況

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「確認した」が8割近く

(問27で「持っている」「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方に)

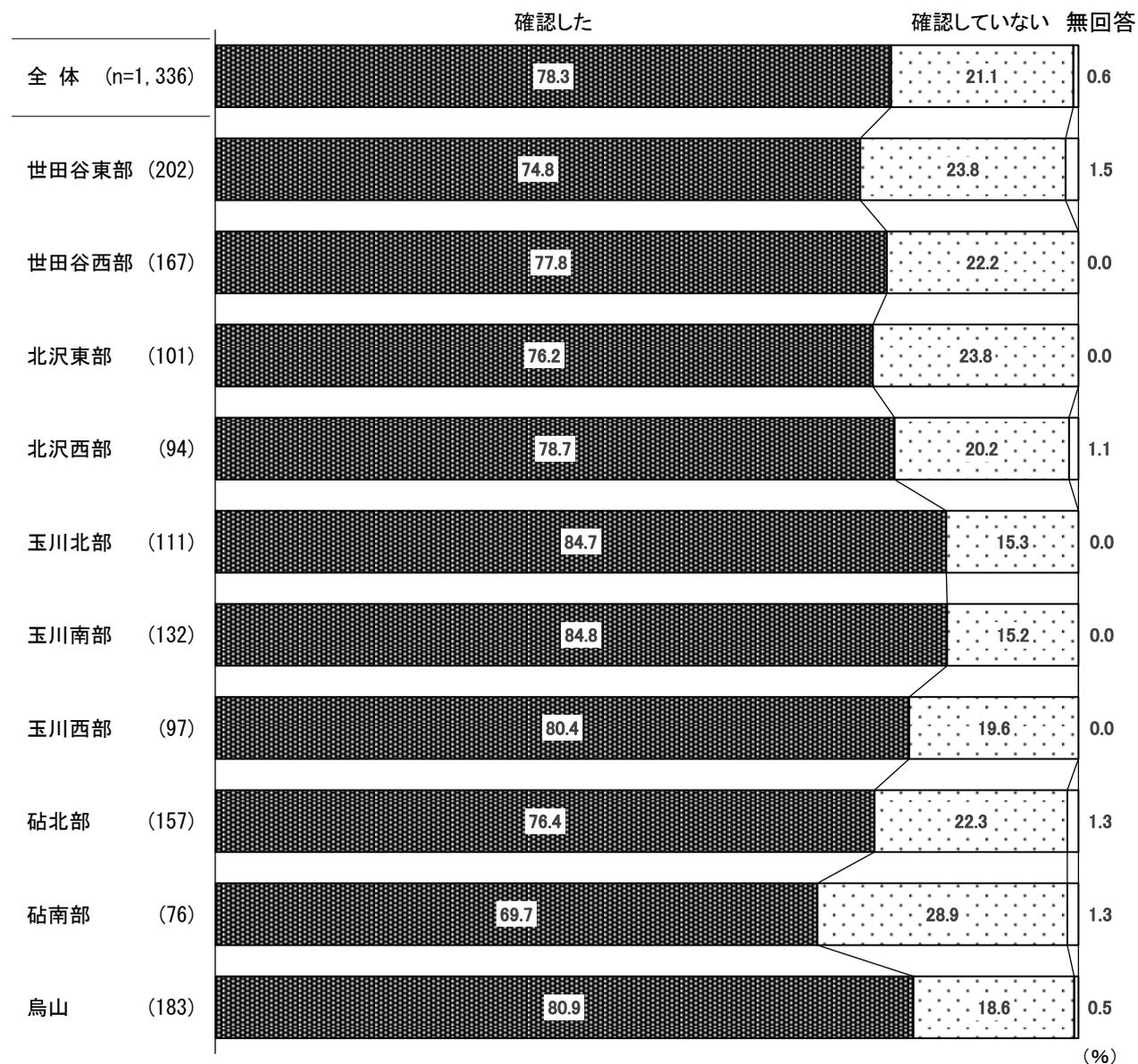
問27-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク（浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ）を確認しましたか。（○は1つ）

図11-6-1



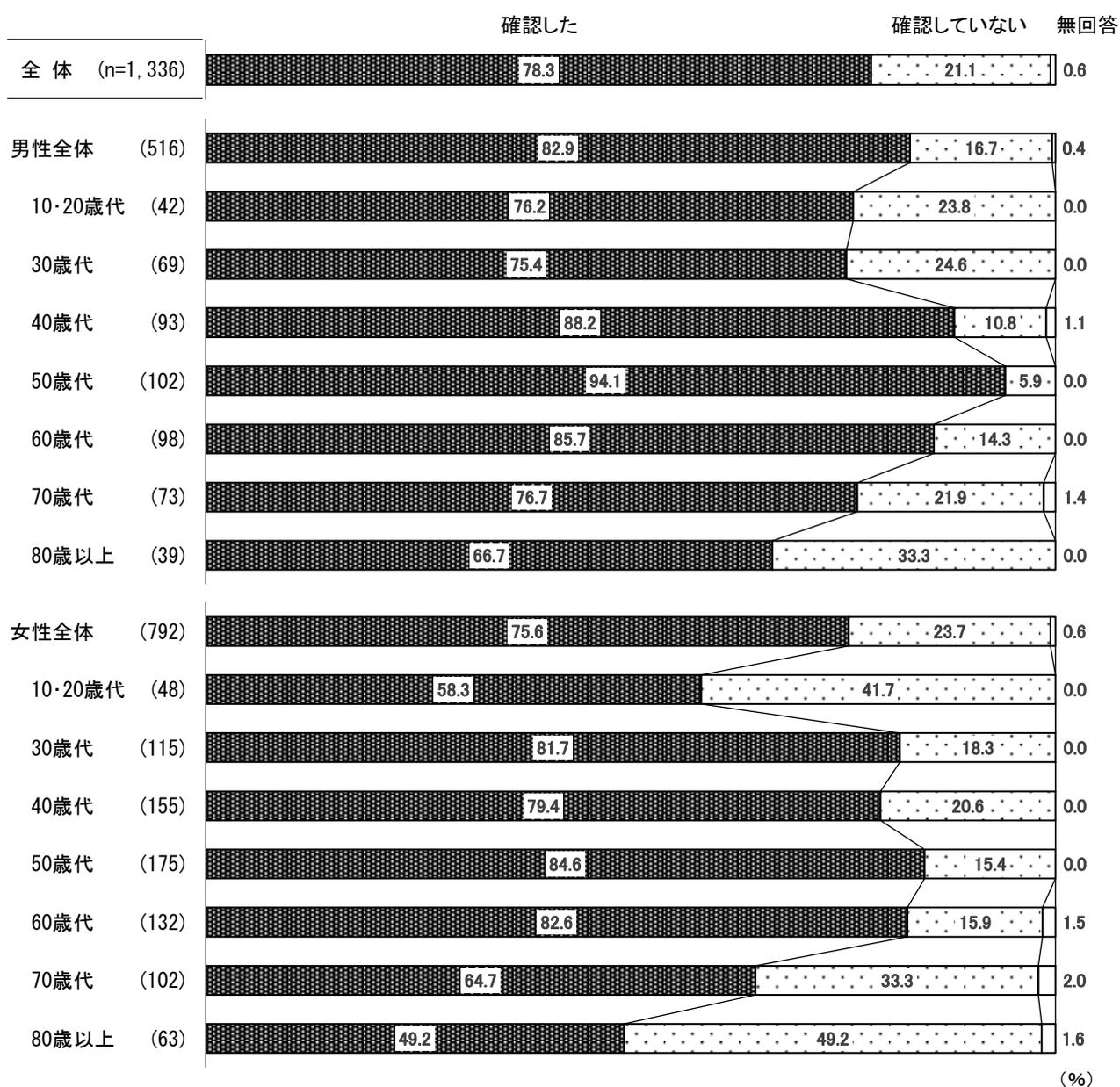
ハザードマップを「持っている」または「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方（1,336人）に、ハザードマップの活用状況を聞いたところ、「確認した」（78.3%）が8割近くとなっている。「確認していない」（21.1%）は2割を超えている。（図11-6-1）

図 1 1 - 6 - 2 ハザードマップの活用状況（地域別）



地域別にみると、「確認した」は玉川南部と玉川北部で8割半ば、烏山でほぼ8割、玉川西部で8割となっている。(図 1 1 - 6 - 2)

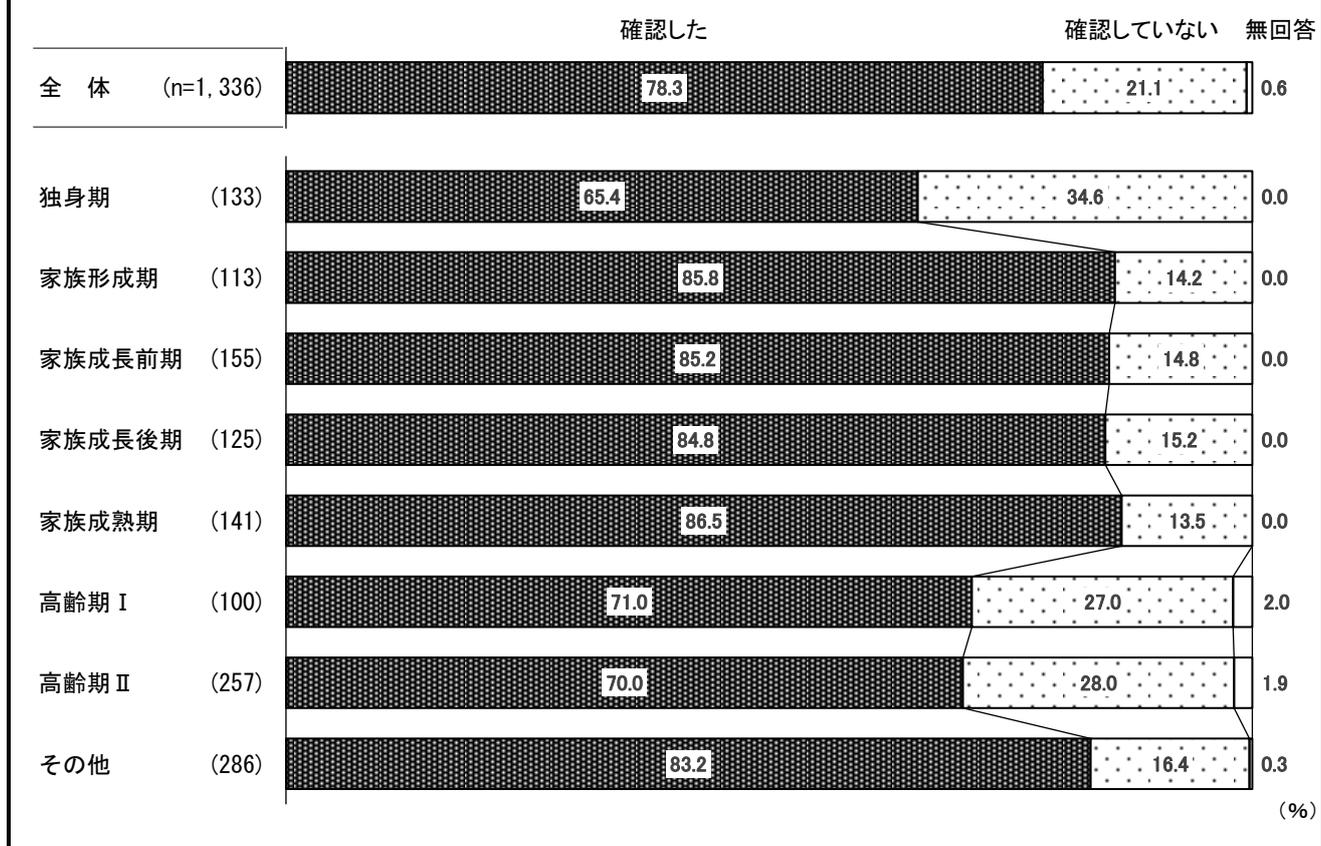
図 1 1 - 6 - 3 ハザードマップの活用状況（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「確認した」は男性の50歳代で9割半ば、男性の40歳代で9割近くとなっている。一方、「確認していない」は女性の80歳以上でほぼ5割、女性の10・20歳代で4割を超えている。(図11-6-3)

図 1 1 - 6 - 4 ハザードマップの活用状況 (ライフステージ別)



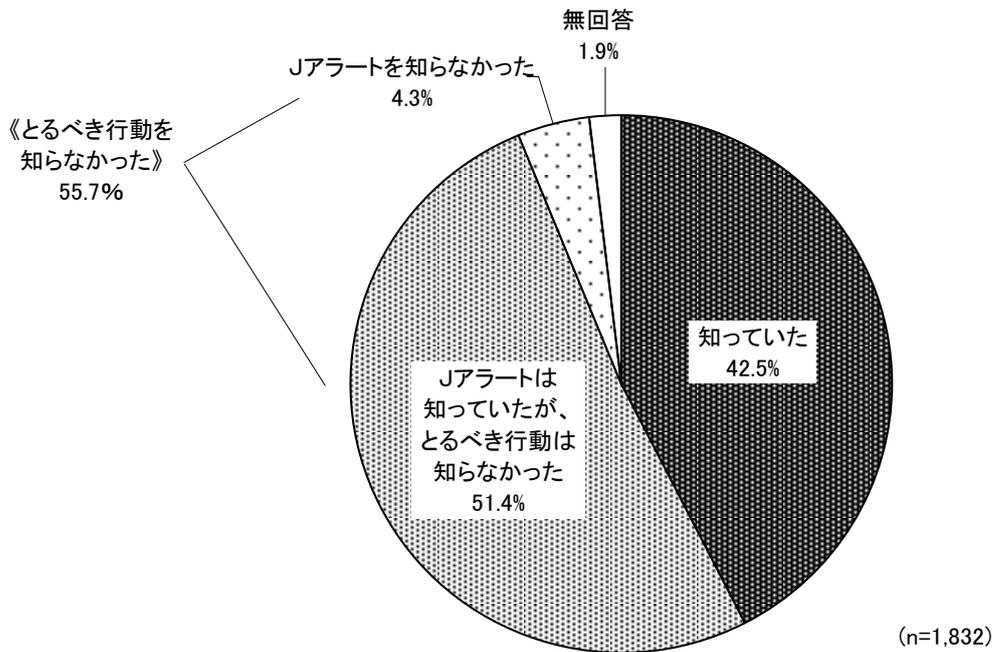
ライフステージ別にみると、「確認した」は家族成熟期で9割近く、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で8割半ばとなっている。「確認していない」は独身期で3割半ば、高齢期 I と高齢期 II で3割近くとなっている。(図 1 1 - 6 - 4)

(7) Jアラート発信時の避難行動の認知度

◎ 《とるべき行動を知らなかった》が5割半ば

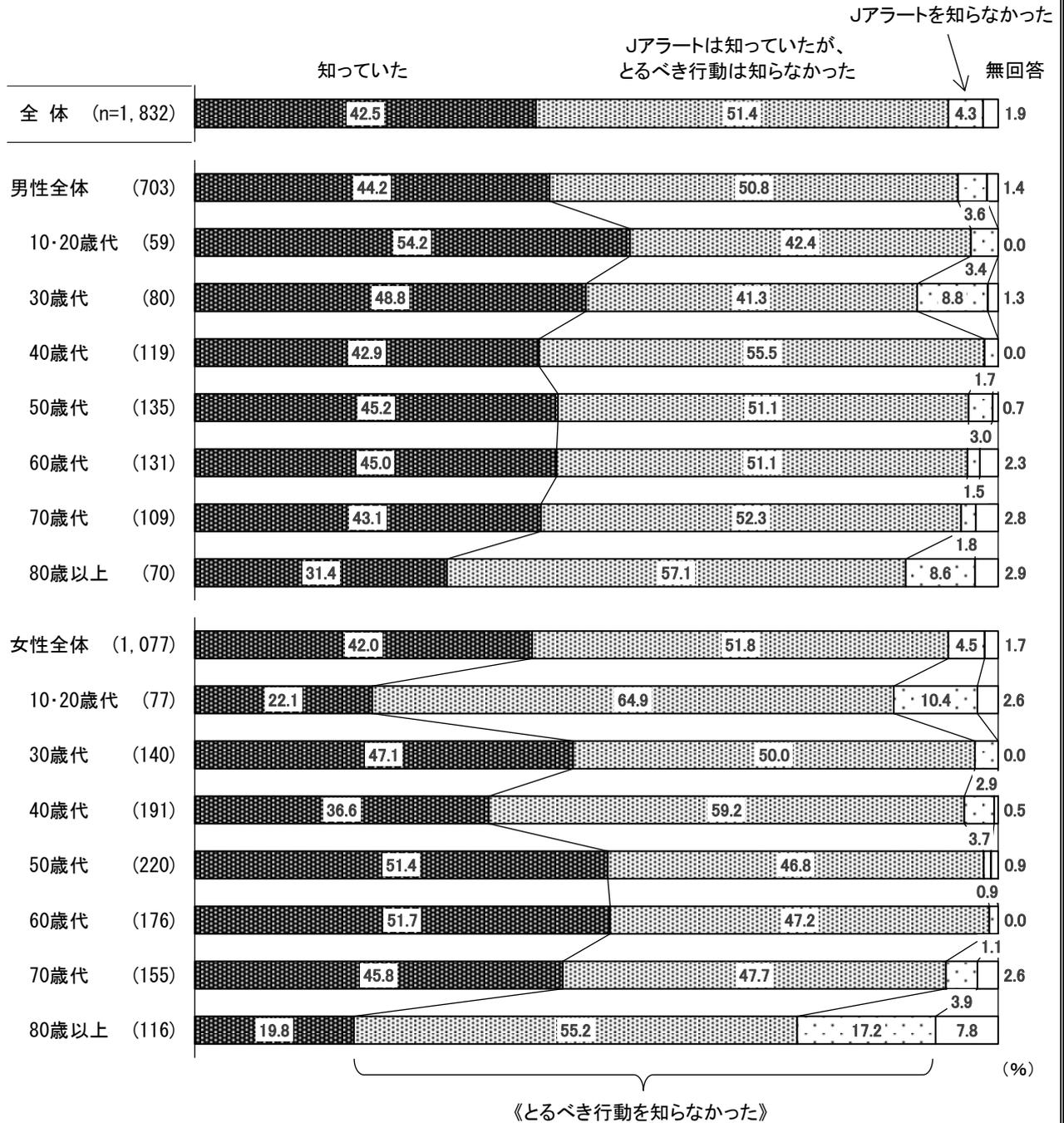
問28 あなたは、Jアラートが発信されたときにとるべき行動を知っていましたか。(○は1つ)

図11-7-1



Jアラート発信時にとるべき行動の認知度を聞いたところ、「Jアラートは知っていたが、とるべき行動は知らなかった」(51.4%)が5割を超えて最も高く、「Jアラートを知らなかった」(4.3%)と合わせた《とるべき行動を知らなかった》(55.7%)が5割半ばとなっている。一方、「知っていた」(42.5%)は4割を超えている。(図11-7-1)

図 1 1 - 7 - 2 Jアラート発信時の避難行動の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っていた」は男性の10・20歳代で5割半ば、女性の50歳代と60歳代で5割を超えている。《とるべき行動を知らなかった》は女性の10・20歳代で7割半ば、女性の80歳以上で7割を超え、男性の80歳以上で6割半ばとなっている。女性の80歳以上は「Jアラートを知らなかった」が2割近くとなっている。(図11-7-2)